

友情資産五〇年事業

村林 むらばやし

裕 ゆたか

(友情資産五〇年事業
実行委員長・一九七六商)

一一七三田会（一九七六年卒業・代表
迫本淳二）のホームページの冒頭文で
す。「二五年前、私たちは「友情資産」
に気づきました。卒業から五〇年、改
めて想います。友情資産は生かされて
活きる生き物だと。鍵をかけてしまっ
たままの友情資産はありませんか？
素敵な記憶に風を送り、光を当て、目
覚めさせる機会がやってきました」。

私たちは、卒業五〇年事業を「友情
資産の再発見」として展開しました。
卒業二五年時に「友情資産」という言
葉を創作し、福澤記念育林資金として

寄付をし、那須黒羽町に「友情資産二
五年の森」の植林を行いました。それ
から二五年、まだ木材としての利用に
は至りませんが、立派に森として成長
しました。

このたび友情資産五〇年事業実行委
員会を組織し、①「集う」として、ク
ラス会を一つでも多く開催し、さらに
ゼミ・研究室・サークルの同期会を開
催する、②毎月一回、同期を講師とす
る講演会を開催する、③募金を行い、
慶應義塾に寄付をする、の三つを実施
することとしました。①②を通じて、
五千名すべての方に当事業のことを伝
え、一人でも多く、できれば全員が三
つの内どれかに参加し、その上で四月
一日に記念館に集い、入学式に参列し、
塾歌を歌うことを目指しました。

講演会の講師（すべて同期）は、出
講順に、元防衛大学校長國分良成君、
エッセイスト阿川佐和子君、日本のI
P産業のトップランナー藤村哲哉君、
「だれでもが暮らしやすい社会へ」と
題して須田裕之君、藤堂栄子君、伊東

久美子君、「幸齢化と向き合う」医学
部の岩田敏君、医療ビジネスからまち
づくりまで手がける野村龍太君、環境
管理型林業の先駆者速水亨君、元サ・
タイガース人見豊君、大宰府天満宮前
宮司西高辻信良君。一人一人の内容を
記載できませんが、日本の国防に始ま
り、身の回りの社会問題を学び、そし
て「変わらないために変わり続ける」
という名言で締めた講演は、いずれも
充実しており、同期の誇りを感じる毎
回でした。

二年前に準備を開始した際、「卒業
五〇年事業」募金とならずに、一人で
も多くの人が何らかの形で参加できる
事業にしよう」「募金は強要せず、先
輩方の数字を意識せず、金額ではなく、
募金参加者の人数を増やそう」の二点
を基本としました。

「三田評論」五月号の芳名記載まで
募金者の名前は一切明かさず、学部別
クラス別の募金実績（人数・金額）表
を作成しないとしました。「寄付をす
る／しないを自分で考える」「寄付金

額を自分で考える」を最後まで徹底しました。ただし、「募金のお願いの歌」を作って、各クラス会に出席してくれただ方がいます。強要ではないメッセージを伝えてくれました。金額のことを口にしない私に対し「心配するな」と言って、誰にも知られずに高額寄付をしてくれた方がいます。一、二一〇名の方から五、二一〇万円を頂きました。「慶應義塾らしい」と心から感じました。

講演会の毎月開催は膨大な人力がかかります。クラス会、ゼミ・研究室・サークルの同期会の開催には、その数の「幹事さん」のご苦労があります。名簿のメンテナンス・HPの運営担当者、一年間毎日作業をしてくださいました。有難うございました。「友情の再発見」には、こうした方々のご尽力がありました。

五千名全員に発送した「事業のご案内第四弾（昨十一月）」に、入学式では「塾歌を友と高らかに」と大きな文字で書きました。「事業のご報告と御

礼（三月）」には、「入学式までにYouTubeで塾歌を三番まで練習し、七〇歳パワーで歌いましょう」と呼びかけました。入学式にお招きに与り、一、四〇〇名を超える一一七会員が集い、新入生の息吹と、塾歌を声高らかに歌える幸せを感じました。涙が溢れたとの感想を何人もの方から聞きました。

友情資産は、ここが終点ではありません。四月一日以降、この原稿を書いている五月中旬までの期間に、既に何件もの同期の集まりが開催されたことを聞いています。友情資産の森の成長を楽しみに、ますます「集い」が繰り広げられることを願っています。